

育成を目指す資質・能力

○わる数が1より小さい場合、商がわられる数より大きくなることを理解する。

ICT活用のポイント

○個々の考え方を素早く集約するために、学習支援ソフトを用いて個別の追究をする。

○考え方を全体で共有する際に、考え方の類似点や相違点を説明するために大型モニターを活用する。

前時の学習を振り返り、
本時のめあてをつかむ。

【めあて】わる数の大きさと商の大き
さの関係を調べよう。

解決への見通しをもたせ、
自力解決する。

考え方を共有し、
自分の考えを深める。

学習を振り返り、
適応問題に取り組む。

事例の概要

○商の大きさに着目させるために、問題を提示した後、商の大きさを予想させて「わる数が1より小さいと商がわられる数より大きくなる」という結果への見通しをもたせ、個別の追究を行う。また、考えを共有する際に、同じ考え方や違う考え方を説明する活動を通して、考えを深める。

【事例におけるICT活用の場面①】

○見通しをもたせる場面において、商の大きさに着目させるために、わる数が1より小さいと商がわられる数より大きくなるかどうか学習支援ソフトの付箋機能を用いてクラスの予想を視覚的に捉えさせる。

【事例におけるICT活用の場面②】

○個別の追究の際に、児童は自分の考え方を学習支援ソフトを用いてまとめる。また、児童の考え方を集約することで、友達の考え方を参考にすることができる。

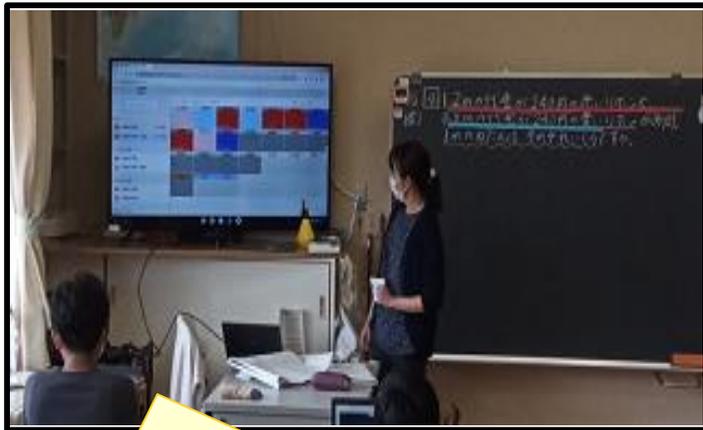
【事例におけるICT活用の場面③】

○考え方を共有する場面において、学習支援ソフトを用いて作成した個人の考え方を、大型モニターを使って全体に説明する。

【算数・5年・「小数のわり算」】②

【事例におけるICT活用の場面①】

付箋機能を用いて、
視覚的に捉える工夫



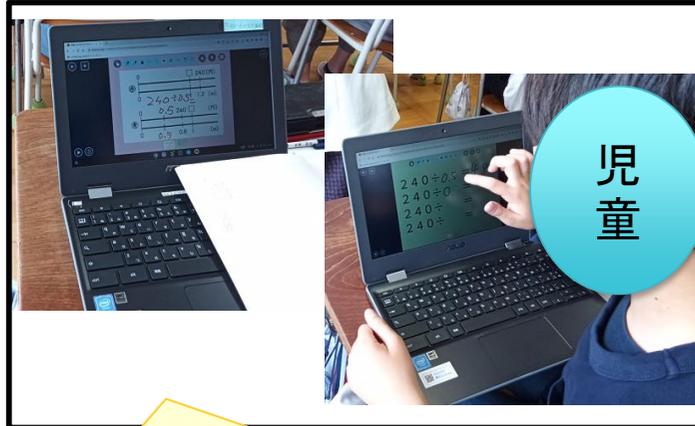
付箋機能を使うことで、色別で友達の予想が視覚的に捉えやすいね

モニターに全員の予想を映したことで、他の児童がどのような予想をしているか視覚的に捉えやすく、個別の追究へつなげることができた。

【活用したソフトや機能】 学習支援ソフト、大型モニター
付箋機能、画面共有機能

【事例におけるICT活用の場面②】

学習支援ソフトを用いて、
個々の考え方を集約

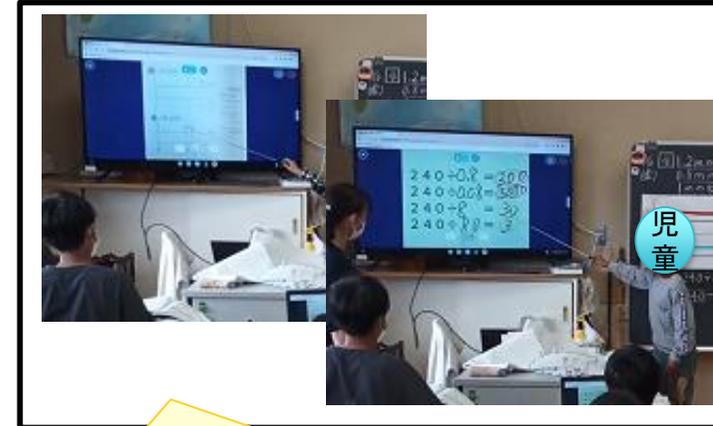


児童の考え方をICT端末を使うことで、見たい友達の考えをすぐに見て参考にすることができるね

児童の個別の追究の進捗状況を随時見ることができ、モニターにも映し出すことで、様々な児童の考え方を全員で共有することができた。

【事例におけるICT活用の場面③】

大型モニターを使って、
自分の考え方を全体に説明



友達の考え方が大型モニターに映し出されているので解き方や考え方が分かりやすいな

画面に映し出した考え方を全体で共有することで、自分の考えとの類似点や相違点をつかむことができ、教師の問い返しによって考えが深まった。また、それを基に適応問題に取り組んでいた。